

復原までの軌跡



■ 娯楽の中心に永楽館

永楽館は、今から100年以上も前に建てられた近畿に現存する最古の芝居小屋でした。前身の永楽館は、小幡久次郎氏が、明治33年(1900年)に起工式を行い、翌年に常設劇場の新設許可を得て、竣工式を行いました。

明治期には、京阪神から歌舞伎一座がやって来て興行を行い、また、大正期に入ると活動写真(映画)の上映にも使用されるが多くなり、弁士が動く写真の名調子で解説するなど、出石の娯楽の中心として盛況なにぎわいでした。

■ 時代の流れにのまれて閉館

昭和期に入り、娯楽の中心が映画に移り変わっていくと、治安維持のため、警官の臨席が設けられ、思想娯楽の検閲・統制が厳しくなりました。

その後、テレビが普及するきっかけにもなった東京オリンピックの行われた昭和39年、永楽館は閉館しました。

■ 復活の兆し

昭和62年、「第1回兵庫町並みゼミ」が出石で開催され、その中で、永楽館を復原しようという声が上がりました。まちづくりの専門家や建築家などと議論が進み、同ゼミの参加者は「出石のまち並みの活性化にとって永楽館は貴重な資源の一つ」ということを確認しました。

翌年、参加者たちは、出石のまち並み

の保存活動を主にする「出石城下町を活かす会」を結成し、建築関係を含む各方面の専門家など約150人が活動を始めました。

■ 復原への課題

永楽館は、個人によって建てられ、館内には廻り舞台や花道、奈落など、芝居小屋に必要な装置が数多くあります。閉館後も、小幡家の懸命な管理があったため、ほぼ原型をとどめてきました。

復原に向けての大きな課題は、永楽館が個人の所有物であり、修復費用も多額になることでした。

復原計画の検討を重ねる「出石城下町を活かす会」は、行政の力を借りることに意見がまとまり、行政に計画を説明し、支援を要請しました。このかいがあり、復原に向けた取組みが動き出すことに。小幡家は永楽館を市へ寄贈し、建物は、市指定文化財となりました。

■ 復原へ動き出す

平成10年、復原へ向けた建物調査が始まりました。史実に基づいて元の姿に戻すため、創建当時の材料や工法、痛んでいる部分などを入念に調べ、記録していきましました。

永楽館が芝居小屋として最も華やかだった大正11年ごろの姿を想定し、当時の写真や資料、実際の構造を確認しながら復原作業が進められました。

永楽館「復原」年表

【明治】
34年 第10代小幡久次郎氏により永楽館建築

※歌舞伎の興行が盛んに行われる

【大正】
初期 映画が上映され始め、活気づく

【昭和】
初期 娯楽の中心が映画へ

39年 閉館
62年 復原へ向けた建物調査開始

【平成】
10年 小幡家から出石町へ建物が寄贈される
永楽館が出石町(現豊岡市)の指定文化財となる

18年 復原工事(建築・電気・機械設備)始まる

19年 舞台吊物・音響照明設備工事に着手
20年 復原竣工式
永楽館柿落大歌舞伎



「仕上がった時は感無量」

田中 定さん

(永楽館復原工事棟梁)

芝居を観に行った永楽館の工事に携われ、とても幸せです。まちな宝が、また一つ増えました。

古い建物の建替えや復原は、これまでに何度も手がけてきました。文化財を担当したのは初めてでした。復原工事で一番苦労したことは、あるものをそのまま使

うということ。最初に調査を始め、1本ずつの柱がどの方向にどれだけ傾き、どれだけ上下しているのかを計測し、使われている木材すべてに番号を付けながら記録していき



「出石町民の心意気に感謝」

上坂卓雄さん

(出石永楽館実行委員会会長)

「柿落としを上方歌舞伎で飾りたい」。8月1日、そんな夢が叶いました。これまで、何度となく永楽館復原の動きが止まりそうに

も感謝します。永楽館の新しい歴史は、始まったばかりです。これからこの永楽館が一人でも多くの人に愛着を持ってもらえるよう願っています。

なりましたが、地域の人々や関係者など多くの人の協力があつたからこその実現させることができました。まちを永楽館の幟で華やかにしようという呼びかけに、快く立ち上がってくれた出石町民の素晴らしい心意気にも感謝します。

子どものころの遠い記憶

うちわと飲み物を片手に役者の芝居に見入った 太鼓の音と囃子を聞くとわくわくします

私には生まれ育った出石に愛着を持っています。そんなまちには全国に誇れる永楽館があります。



「お客様と一体になりました」

片岡愛之助さん

(永楽館柿落大歌舞伎座頭)

永楽館はとても素晴らしい芝居小屋です。ここで芝居を演じられるのは役者みょうりにつきます。豊岡はよいまちです。緑豊かで、ここに住む人々も温か

ました。永楽館の歴史は始まったばかりです。また、この永楽館で芝居を演じられる日が来ることを楽しみにしています。

この永楽館を利用するお客さんに気持ち良く楽しい時間を過ごしてもたらうため、私が所属するグループ「夢ぱれっと」のメンバーで、400枚の座布団にカバーを縫い付けました。

永楽館の雰囲気は出石にぴったり。出石の新しい観光スポットとして、地域の人々や観光客に可愛がってもらえるといいですね。

また、呼びかけに答えていただいた方々など合わせて22人で、開催期間中、館内など



「永楽館の雰囲気はぴったり」

川見祐枝さん

(夢ぱれっとのメンバー)